

聖句

草も木も 枯れたる野辺に ただ
ひとり 松のみ残る 弥陀の本願
観智国師

真生

第80巻481号

<http://canchiin.net>

1・4・7・10月15日発行

【発行所】
真生同盟本部
〒105-0011
東京都港区芝公園
2-2-13 観智院

【振替】
00160-6-80674

【電話】
03(3431)1450

【Email】
shinsei@canchiin.net

【編集兼発行人】
土屋正道

会費 年額 2,000円
一部 100円

光寿無量

よろこびひかり
喜の光のなかによろこびの
歳をつもるはみだの御めぐみ

弁栄上人

令和三年元旦

真生同盟主幹 観智院住職 土屋正道
真生同盟役員・観智院 法類・檀信徒総代 一同

由恵・遙・法道

逆縁の恩寵

土屋正道

かりそめの 色のゆかりの
恋にだに あふには身をも
をしみやはする

法然上人

世永劫に添うて幸福を共にする阿
弥陀様に対して、心から信じお慕
い申し上げ、恋い焦がれる想いな
らば、仮の身や命など惜しいこと
はありません。

一時の恋愛でさえ、恋しい人と
契るためには、命も決して惜しみ
ません。まして私をこの世、後の

今から三十年ほど前、三十代の
前半、私は危機に見舞われました。
ある方と別れなければならなく

なったのです。その方のためなら
ばと諦め、会うのも電話もやめて
一ヶ月半ほど経ったある日、突然
訪ねてこられました。お貸しして
いたものを返しにいらしたのです。
ずっと泣いていました。帰る後姿
を見送りながら「私が泣かせてい
る」と感じ、諦めないことにしま
した。すると苦しくなり出したの
です。

四六時中その方の事を考え、知
人友人に窮状を訴え、「なんとか
してください」と御仏にお願ひす
る。「愛別離苦」、私は煩惱の炎に
焼かれました。「永遠の生命と無
限の向上」を願う真生の念仏では
ありません。「御仏の御心にな
う」どころか自らの欲望を叶えん
がための念仏です。その方をいつ
も憶念し名前を称えるうちに、無
意識に口を突いて出るようになり
ました。泣きながら、すがりつく
だけの念仏ですが真剣にお称えす
るうちに「私の中で御仏が私をな
んとか助けたいと泣いてくださっ

ているんだなあ」と思う瞬間が訪れました。

私の最も尊敬する上人より頂いた手紙を今も大切にしています。

「真面目な求道者の貴師のお気持ちかわかるだけに、私も涙が出そうになります。本当に縁とは不思議なもので完全に熟して居なければポタンと落ちません。身にふりかかる全ての事をお念佛裡に、全て受け入れられますよう、そしてそれが有難い事であったと後で思い出せませすように時間の過ぎ行く事を祈って居ります」

その時は有難いことだったと思える日が来ようとは思いませんでしたが、今では、御仏を恋い慕い、念仏を申す身にならせていただくためには大切なご縁、逆縁の恩寵であった、と思っています。

思い通り なるもならぬも 皆
よろし ふかき恵みの こもりて
あれば

尅子上人

『宗教の本質』

(二) (昭和十年九月発行)

土屋 観道 上人(眞生同盟初代主幹)

(承前)

二、宗の三義

宗教の宗の字には三つの意味があります。「独尊」と「統撰」と「帰趣」とであります。俗にあなたの宗旨は何でありますかなどと尋ねられることがあります、これは普通あなたの宗教は何ですかと云うのと同じ意味に使われて居ります。然し今日では宗旨と宗教とが

同じ意味に使われるほどにまでなりましたが、厳密に云えば宗旨とは宗の旨だ云うのであつて、宗の旨とは独尊、統撰、帰趣の内容をを持ったものを指したのであつて、古来宗教ではそれを以てその宗の宗旨としたのであります。それが

後にはその宗旨を以て直に宗教とするようになりました。ところで、ここに独尊と云うこ

とはこの世の中で、一番尊いとこ

ろのものを云うのでありますが、詳しく言えば独尊とは独一最尊のもの、絶対とか唯一とか云わるべきものであります。最尊と云うのは最上尊、または最高至尊とも云つてこの上もない最高至上の尊を云うのであります。

統撰とはすべおさめると云うことであつて、すべてのものを秩序井然と統一して乱るゝことなからしむるを統撰と云うのであります。帰趣とは帰一趣向と云つて、すべてのものがそれに帰り趣くと云うことであります。

ところで、統撰と帰趣とは独尊の中に具っている一つの属性であつて、独尊はこの統撰と帰趣とを自ら具しているものでなくてはなりません。従つて独尊を唯一

絶対の最尊至上のものとするれば統撰と帰趣とはその中に具有するところの力と恵みとに当り、また独尊を一種の人格としてこれを見れば統撰と帰趣とはその智慧と慈悲とに当ります。即ちこの世の一切の万有はこの宇宙の独尊に対して、統一せられ、帰趣せられ、そこに宇宙は一大調和の中に一大活動をするのであります。

然らば果して、この世に独尊と云うものがあるであらうでしょうか、これは色々の見方からして、それを発見することが出来るのであります。私はこれを最も手近なものから類推して、その独尊の何物なるかを知ることが出来ると思ひます。

試にこの時間空間に亘つて、活動止まない、天地の相を暫く静観して頂きたい。この大宇宙には実に驚くべき絶大無限の大なる力が何処にも此処にも充ち満ちているようであります。そして、その力は無限の法則の上に行われている、

法則を離れて万有の働きは見るこ
とが出来ないのであります。所謂
天地の万有は力の法則によって動
き、また動かされていると云つて
よいのであります。また一切の万
有は此の天地の力によって、生存
し、活動し、生長、発展も出来る
のであって、この天地の力なくし
ては生長も発展も、存在さえもあ
り得ないのであります。

して見れば、この宇宙には無限
の力を独尊とし、無限の法則を統
撰とし、無限の恵みを帰趣として、
一宗を為すところのものが実在す
ることを否むことが出来ましょ
う。私はそれを否むことが出来な
いのであります。

もしこの宇宙全体として考えれ
ば、一切の万有はその一部分であ
るとも云えましよう。またこの大
宇宙から一切の万象が表わされて
いると見れば、宇宙は万象の本源で
あり、本体であると云える。万象
の外に宇宙なく、宇宙の外に万象
なしと云えば、宇宙即万象、万象

即宇宙であつて、万象と宇宙とは
一体のものであります。しかもこ
の万象一体の宇宙の中に、無限の
力と法則と恵みとが常に働いてい
るのであるが、この力と法則と恵
みとを内包する宇宙を一大人格と
すれば宇宙は一大霊体と云うこと
が出来るのであります。

宇宙を一大霊体とすれば万象は
それから現われた宇宙の分身であ
り、分霊でみると云つてもよい。
しかもこの分霊と大霊と関係を説
くものが宗教であります。即ちこ
の大霊と分霊との関係に一宗がな
り立っているのであります。

大宇宙にこういう大きな働きが
働いているのだから、宇宙の現わ
れたる各分身の中にも、そこに一
つの有機体的一団が成立すれば、
自らそこに、一つの宗なるものが
成立し、この宗を中心として、そ
のものが統撰帰趣の働きをも現わ
して来るのであります。

試にその手近なものを取つてこ
れを明にしてみたいと思うのであ

ります。

私は先づ便宜の爲めに、一つの
動ける物体を捕えて、これを静か
に観察することを勧めます。する
とその物体はこれを一団として見
ることが出来ます。そしてまた全
体と部分とに分けて見ることも出
来ます。そのとき全体は部分の集
りであり、部分は全体の一部であ
ります。ところで問題はこれから

でありますが、全体と部分の關係
において、全体には全体の中心が
あり、部分には部分の中心があり
ます。そして全体の中心は全体の
凡てを代表し、部分の中心は部分
の凡てを代表すると見ることがで
きましょう。また、全体の中心全
体において唯一であるが、部分の
中心も部分の唯一であります。然
し、全体に対する部分は無数にあ
るから、無数の部分の中心もまた
無数にあると云えましよう。

この時、全体の中心は部分の中
心に対して、宗となるのでありま
す。即ちこの全体の中心はこの部

分の中心に対して独尊であり、統
撰であり、帰趣であるところの働
きを為して居ります。これは物理
学上から見た力の集合を研究する
ことよつて、知ることが出来ま
すが、これは単に物理的法則ばか
りでなく、あらゆるもの、集団に
おいて、全体と部分との關係は各
自この働きを以つて動いている。

けれども何れとしましても、こ
の宇宙が実に無限絶大なるもので
ありまして、時間空間を超越して、
限りなき活動体であることは誰人
も否定することが出来ません。し
かもこの宇宙現象の上に、一種の
限り無き力と法則と恵みとが充ち
満ちていることも、また否定する
ことが出来ぬと思うのであります。
しかしてこの力を物質的と見るか、
精神的と見るかによつて、この世
が唯物的見解と唯心的見解とに分
れるのであります。おおよそいか
なるものにも、この両面が見ら
る、のであります。

私はこの両者の更に根底なるも

の、存在として、これに宇宙の大霊の実在を認むるものであります。仏教ではこれを真如と云うのであります。言換えればあらゆるものには心霊がある。宇宙には宇宙の心霊があり、万有には万有の心霊がある。従って人間は元より、山川草木、禽獣虫魚、その他一切の万象、土塊、一塵に至るまで、皆一として心霊のないものは無いとする。しかもその心霊は物質的方面と精神的方面とがあるのであります。

そして宇宙の大霊は仏教で云えば真如に当り、神道で云えば天之御中主神に当ると云ってよい。これを宇宙の大我とすればこれより出た一切のものはその分身であり、小我である。これを宗教的に云えば大我は如来にして天地の大ミオヤ、小我は衆生であつて、如来の御子と云ってよい。前者を神と云えば後者は神の子と云うべきである。

宇宙の力が神の力であり、仏の

力であるならば天地の法則は神の則であり、仏の法である。あるいは神仏の智慧によると云つてもよい。即ち独尊に対する統撰であります。従って天地の恵みはそのまま、神の愛であり、仏の慈悲である。万有は一としてこれによって統撰せられ、帰趣せられないものとしてはない。一切はそれによって、生き活かされているのであります。如何なるものも力の前には抗することが出来ない。これに反するものは亡ぶるのみであります。従って一切はこれに従うより仕方がない、法は力であります。

しかしながらそれと同時に、いかなるものも慈悲の許に近づかないものはない。いかなるものも愛するもの、前には身も心も任せざるを得ないからであります。そして一切のものはそこに栄える。すべての慰安もそこにある。どんな恐しい動物でも、どんなにひねくれた人間の心でも自分を愛してくれるものには敵することが出来ない

いのであります。

ある人はこれを人格的に解することをせずして、ただ宇宙の物理的力とする。しかし何故にそれを神(仏)の力としていかぬのかたとえそれを神(仏)の力としなくても、宇宙生命の力とすることに異存はないではないか。宇宙の力には無限絶対の偉力がある。それは人間以上の力である。この力が一面には無限の法則となり、他面には無限の恵みとなる。これを人格的に扱えば、前者は如来の智慧であり、後者は如来の慈悲である。あるいは神の道であり、愛である。この道と愛との本源こそ、即ち私共の云う信仰の対象たる独尊であります。(続)

生きた信仰

中野 魁子(善英) 上人

剥製の庭鶏は、羽根も目も、生きて居るままの鶏の姿をして居るが、卵を産まぬ、コケッコウをいわぬ。

信仰も剥製の信仰ではいかぬ。本モノの通りだが動かぬ。本当の喜びの味も希望の力も出ぬ。言う事は同じようだが、信仰の生命から動いて出る活動が無い。信仰とは肚の中へ天地の生命を入れる事です。いや肚の中から天地の大生命の、商売やお百姓をスルことです。そんな事をいうと、人は狂人とか笑うだろうが本当はソレが真実です。

花一輪と雖も、「真実より」咲かされて居らぬものは無い。大地の子として大天地が総ての力を挙げて咲かして居て呉れる。余りに「存在」を軽視してはならぬ。

観智院LINE

QRコードとURLからぜひ御登録下さい。



<https://linee/giHceKa>

『宗祖の皮髓』成立をめぐる
―浄土宗義と光明主義― (二)

〔浄土宗学研究 昭和五一年度第九号〕より
土屋 光道 上人(眞生同盟二代主幹)

(承前)

二、知恩院高等講習会

まず最初に父に宛てた上人のお便り(5)を御覧に入れることから始めましょう。日付は大正五年七月二八日、上人五十八才、観道三十才の年でございます。(この年の

一月、父は師匠の中島観琇老師の許しを得て、弁栄上人を芝増上寺山内の学寮多聞室にお迎えして起居を共にし、爾後大正九年上人御遷化まで、上人にお仕えしました。)

暑中厳き熱さの折柄、其後如何在らせられ候哉、先頃浅井上人よりの御手紙によれば、先月は佐渡の国へ御渡り相成り候て、島人に慈悲の福音を宣伝えられしものと有がたきことと御祝申上候。

本月中旬には御帰京成るべきとの事、昨今いかに光明のなかに道

を取り成され候哉。

五月中旬御別袖よりもはや二ヶ月もちかく相成候へば、種々はなし申度事も有之候へども、東西へだたり意を得ず候。さりながら何処も同じ慈悲の懐の中に法悦を味ひつつ日を暮す事は同一にて候。

愚納事、先月廿日に立出候て京都への途次三河国にて兩日講話し、廿三日祖山に着し、廿五日より廿八日迄毎日二時間講演いたし候。

講題は、宗祖の皮髓てふ名の下に、宗祖の霊的内容の實質を吾人末徒の学ぶべきを自信教人信的に思考し候。それでも、宗教の眞生命は言語文字仮名方便に止まらずして、信仰する人の精神的に靈的活証活仏たることを解する同胞を發見さして下され候。

大みおやの御はからひは深く感

謝に不耐候。異安心視された弁栄が、安心と云ことを言語丈でなく、如来が信者の心念中に靈活する物であると云にありと云のみ。

彼らは、安心とは只言語丈におもふて居たのが還て誤りて在つたと云様な具合に、還て曾つて誤解したる方々も大いに随喜を表して、折角の事なれば、定期の講習会終了のち、せめて兩日なりとも、有志の為に講話を望むとの事にて、本山事務員また講習会發起人等の

首唱の下に、殊に学校の職員のおくは皆来聴せよと云様な具合にてあり候。

死んだ安心より活きた安心の方が、死と活とは全く異なるには相異なければども、比較すれば活きた安心の方がよいと云様な結果に歸し候。

如来サマは無量寿に在まして永意に生きたる御方に候へば、活きた方へ聖意を注ぎ玉ふと信じられ候。ミナ悉く如来サマの御はからひなれば、只々感謝の外無之候。

殊に老法主貌下には、幾度も御見に成て、御下問在らせられし事は有がたく感じ候。

五日に祖山を辞して伏見の清涼庵、昨年松代剃髪せし清涼庵に一泊し、桃山御陵参拜。

祖山を辞して後、信州長野在の出、徳武氏(五六年浄土学出)随行いたして呉候。志しの深き方にて候。美濃の大垣町岐阜市佐屋、伊勢の桑名等に結縁いたし、廿五日当講習会を開き、今日四日目に相成候。地方の講習会としては団員も沢山にて候。全部で百名位。

七日間の結了せば、帰途三河国碧海郡にて講話いたすことにきまり候。

何れまた後便に譲り、定めて東京はあつき事にて候はん

と存候。
まづは当要如斯に御座候。勿々
廿八日 和南
土屋尊者 山崎弁栄

御許

この貴重書簡(句読点は筆者挿入)を父に賜わったのには、次のような事情があったからであります。

実は(6)、この京都知恩院における高等講習会の講師の依頼を初めに受けられたのは、弁栄上人でなく、笹本戒浄師であった。そして笹本師より土屋観道に、自分の代りに弁栄上人を推薦したい旨相談があった。そこで父が賛成し、当時、多聞室から二、三分の近くにあった浄土宗の宗務所を訪ね、教育学部長の竹石耕善師に相談し、弁栄上人の出講が決まった。

竹石師は鎌倉長谷観音の御住職であり、父とたまたま郷里が同じ九州であって、「鎮西会」という同郷の集いに先輩として懇意でもあり、父の宗大在学中の朝鮮・満州方面の夏期伝道旅行にも、その費用を宗門から出してくれた方でした。

ところで、やがてこの弁栄上人が高等講習会講師として京都の大

門了康師とならんで任命を受けた旨、当時の「浄土教報」誌上に発表されるや、大変な反対が宗内からまき起った。すなわち、全国より、今更、異安心者を講師に頼む必要もないし、聞く必要もないという抗議の投書が、当時東京にあった浄土宗宗務所にいくつも来たそう

で、知恩院の役職にある井上徳定師などは嚴重な抗議を寄せて来た由であった。

当局としては、すでに任命発令し、浄土教報にも正式発表した手前もあり、さりとて黙殺するにはあまりに反響が大きかったので、その処置に困却し、当の責任者である数学部長の竹石師が私の父を呼んで相談をしたのであります。その折、竹石師に対し父が

「弁栄上人が異安心というが、それなら一層、弁栄上人の安心を直接よく聞いて、違うならその違うところをこの際ハッキリさせたらどうか、一犬虚に吠えて万犬実を伝うということがあるが、自分で

聞きもせず、他人のうわさで異安心あつかいすることは承服出来ない。一体、異安心だと非難するが、むしろ無安心の人が多いじゃあないか」と、主張したところ、竹石師は「それは理窟が立つ」と喜ばれて、他の反対をおしのけて、あくまで弁栄上人にお願ひすることになったということでした。

そんな事があったので、父が上人に、

「お上人、あなたはよく信仰のお話しをなさいます、滅多に法然上人の信仰についてお話しをなさったり、宗祖のお言葉をひいてお話しをなさることを聞きませんが、そういうことを世間も云うております。何とかその点をお考えいただけますか」

と申し上げました。そうすれば世間の人も「異安心者と云わなくなるのではないか」と、父なりに御注意申し上げたらしい。

父は、その時の弁栄上人の御返事をよく語っては感激を新たにしていきました。それは、

「法然上人のお言葉を一々引かなくても、信仰そのものが正しい信仰であったならば、それでよいではありませんか」

信仰それ自身に間違いがなければ、一々、「法然上人はこう云われた、宗祖はこうおっしゃった」とその言葉をひかなければならぬという必要はなからう」と云うのであり、解釈すれば、自分の信仰の内実が宗祖のそれと違っていなければよいではないかという意味であります。

しかし、父観道のこの言葉がヒントになったのでしょうか、弁栄上人は、この講習会で『宗祖の皮髓』と題して、異安心者と手ぐすね引いていた衆僧に、法然上人の御歌七首を取上げ、自らの宗教体験の内観から法然上人の霊的人格の皮肉骨髓を鮮明され、自らの信仰がその宗祖のそれといささかも

異らぬまゝを諄々と説かれたのでした。

安心とは言語文字の死んだ理解でなく、信者の心念中に活きて働きたもう如来の靈力なりという主張に、並いる衆僧ことごとく心服し、反対者として一番後列に座して批判的であつた井上徳定師が、次第に引き込まれ、最後には最前列で耳を傾け、自ら立つてその徳を讃仰したと云われる。また前掲書簡にある通り、管長貌下も度々熱心に御下問になり、予定結了後、さらに続講して、教職の者など全部聴講すべしという有様で、いかにその感銘が深く、大きな反響がまさおこつたかが窺われる。さらに、その請により草稿に筆を加え、この年十二月、井上徳定師の跋文をのせて京都一音社より印刷発刊されたのが、この著作が今日にのこる機縁となつた。

(続)

(註)

(5) 「眞生」二六卷三八号

昭和四二九月

(6) 「宗祖の皮髓」前掲

『大悲に生きる』一八四頁以下

行事報告

秋彼岸会

二〇二〇年九月十九日(土)

午前十時

開会挨拶 酒井正空

念仏 田中典幸

十時十分

法話 諸澤正俊

念仏の船に乗る

十一時

法要 導師 土屋正道

維那 田中典幸

参加者

東京

土屋 正道

廣田 敦子

佐藤利恵子

上田密記子

中村 立道

千葉

埼玉

諸澤 正俊

田中 典幸

土屋 由恵

土屋 遥

土屋 法道

服部 道子

矢崎 勝彦

酒井 正空

(敬称略)



法話 諸澤正俊



秋彼岸会 法要

第九回 京都二十四時間 不断念仏会 完全リモート開催

二〇二〇年九月二十六日(土) 十三時

〜二十七日(日) 十三時

本年度九回目を数える「京都の中心で、仏の名を称える」二十四時間不断念仏会ですが、新型コロナウイルスの感染拡大に鑑み、五月の東京二十四時間不断念仏会と同様に完全リモートでの開催となりました。

これまでの「京都の中心で、仏の名を称える」二十四時間不断念仏会と同様に浄土宗大本山清浄華

院さまを不断念仏会の本会場に念
仏中継の中心拠点とし、また二十
四時間不断念仏会事務局の観智院
ならびに姉妹寺院である多聞院、
そして不断念仏会有縁の各所より
念仏配信を行い、世界からも念仏
ライブ配信や念仏行脚などで二十
四時間をリモート念仏で繋いで厳
修いたしました。

参加をご希望の皆様には前回と
同じように清浄華院さまからの中
継、観智院有縁の各所、また世界
各地から配信されるインターネッ
トによるYouTubeのライブ
配信をご自宅などからご覧いただ
き、共に念仏をお称えいただきま
した。

また、今回は新たにインター
ネット中継をご覧になるだけでな
く、お持ちのコンピュータやス
マートフォンを使ってご自宅や有
縁の場所からZoomを使ってオ
ンライン上の念仏会にご参加いた
だけるようなシステムを取り入れ
ました。

今後の二十四時間不断念仏会に
関しましては、コロナウイルスの
影響次第ではありますが、できる
ならばこれまで通り実際に対面で
皆様とご一緒に念仏が称えられる
ような形が再開できれば幸いです。

念仏中継箇所（配信者）

① Aメイン会場 B有縁各所

② 世界各地

九月二十六日（土）

十三時～十四時

① A 清浄華院大方丈（京都）

小林上人、工藤上人

（清浄華院僧侶）

B 武蔵村山市（東京）

諸澤正俊（観智院所属僧侶）

② ラハイナ浄土院

（ハワイ、マウイ島）

原源照上人他

（ラハイナ浄土院住職）

十四時～十五時

① A 中継なし

B 専念寺（長野 上田市）

福田哲也上人

（専念寺所属僧侶）

② コロア浄土院

（ハワイ、カウアイ島）

石川広宣上人

（コロア浄土院住職）

十四時三〇分～十五時三〇分

② 林海庵（東京 多摩市）

笠原泰淳上人（林海庵住職）他

十五時～十六時

① A 清浄華院大方丈（京都）

工藤上人、宍戸上人

（清浄華院僧侶）

B 所沢市（埼玉）

酒井正空（観智院所属僧侶）

十五時三〇分～十六時三〇分

② 念仏行脚（東京）

土屋正道（観智院住職）

十六時～十七時

① A 清浄華院大方丈（京都）

小笠原一博上人

（大周寺副住職）

B 専念寺（長野 上田市）

福田哲也上人

② カトマンズ（ネパール）

ミラン光明シエスタ氏

ミンディラシエスタ氏

十七時～十八時

① A 清浄華院大方丈（京都）

小林上人、松田上人

（清浄華院僧侶）

B 武蔵村山市（東京）

諸澤正俊（観智院所属僧侶）

② A 西方寺（仙台市、宮城）

大江田絃義上人（西方寺住職）

B 菩提学苑（台湾）

開明法師他



十八時～十九時

① A 中継なし

B i 大念寺（乙訓郡、京都）

館 宏道上人（大念寺住職）

B ii 多聞院 (東京、港区)

田中典幸 (観智院所属僧侶)

② 法城寺 (愛知 碧南市)

石川乘願上人 (法城寺住職)

十九時～二十時

① A 清浄華院阿弥陀堂 (京都)

浄山学寮生

B 観智院 (東京、港区)

土屋正道 (観智院住職)

② 阿弥陀寺

(オーストラリア ブリスベン)

ウィルソン哲雄上人

(阿弥陀寺住職)

二十時～二十一時

① A 中継なし

B i 蓮乗寺 (京都市)

登田正樹上人 (蓮乗寺住職)

B ii 専念寺 (長野 上田市)

福田哲也上人 (専念寺所属僧侶)

② イビウーナ日伯寺 (ブラジル)

櫻井聡祐上人

(イビウーナ日伯寺住職)

二十一時～二十二時

① A 中継なし

B i 國生寺 (京都市)

木津恵雄上人 (國生寺住職) 他

B ii 板橋区 (東京)

中村立道 (観智院徒弟)

② 安養寺 (神戸市、兵庫)

清水良将上人 (安養寺住職)



二十二時～二十三時

① A 中継なし

B i 隆佐庵 (大津市 滋賀)

松田道観上人 (清浄華院僧侶)

B ii 坊主バー (新宿区、東京)

山本直志 (観智院徒弟)

② 光明寺 (枚方市、大阪)

羽田篤法上人 (光明寺副住職)

二十三時～〇時

① A 中継なし

B 観智院 (東京 港区)

土屋正道 (観智院住職) 他

② A ヨーロッパ仏教センター (フランス、パリ)

高僧光隆上人

(ヨーロッパ仏教センター住職)

B 玄向寺 (松本市、長野)

荻須真尚上人 (玄向寺副住職)

九月二十七日(日)

〇時～一時

① A 中継なし

B 所沢市 (埼玉)

酒井正空 (観智院所属僧侶)

② 玄向寺 (松本市、長野)

荻須真尚上人 (玄向寺副住職)

一時～二時

① A 中継なし

B 武蔵村山市 (東京)

諸澤正俊 (観智院所属僧侶)

② 観智院 (東京 港区)

古田幸隆上人 (法学寺住職)

二時～三時

① A 中継なし

B 板橋区 (東京)

中村立道 (観智院徒弟)

② 法雲寺 (豊田市、愛知)

水谷雅豊氏他

(法雲寺所属僧侶)

三時～四時

① A 中継なし

B 多聞院 (東京 港区)

田中典幸 (観智院所属僧侶)

② セントルイス (アメリカ)

ステイブンビクター氏

四時～五時

① A 中継なし

B 観智院御内仏 (東京 港区)

土屋正道 (観智院住職)

② 観智院 (東京 港区)

古田幸隆上人 (法学寺住職)

五時～六時

① A 中継なし

② 法雲寺 (豊田市、愛知)

中村立道 (観智院徒弟)

② 法雲寺 (豊田市、愛知)



B坊主バー(新宿区、東京)

山本直志(観智院徒弟)

②法城寺(愛知 碧南市)

石川乘願上人(法城寺住職)

六時〜七時

①A清浄華院大殿(京都)

松田上人(清浄華院僧侶)

浄山学寮生

B武蔵村山市(東京)

諸澤正俊(観智院所属僧侶)

②クリチバ日伯寺(ブラジル)

大江田晃義上人

(クリチバ日伯寺住職)

七時〜八時

①A清浄華院大方丈(京都)

小笠原一博上人

(大周寺副住職)

B所沢市(埼玉)

酒井正空(観智院所属僧侶)

②月影寺(武蔵野市、東京)

藤井正史上人(月影寺住職)

八時〜九時

①A清浄華院大方丈(京都)

松田上人、工藤上人

(清浄華院僧侶)

B i 蓮乗寺(京都市)

登田正樹上人(蓮乗寺住職)

B ii 多聞院(東京、港区)

田中典幸(観智院所属僧侶)

②長昌寺(大分)

今井英之上人(長昌寺住職) 他

九時〜十時

①A中継なし

B 大念寺(乙訓郡、京都)

館 宏道上人(大念寺住職)

②所沢市(埼玉)

酒井正空(観智院所属僧侶)

十時〜十一時

①A清浄華院大方丈(京都)

高橋上人、松田上人

(清浄華院僧侶)

B 観智院(東京 港区)

土屋正道(観智院住職)

② 多聞院(東京、港区)

田中典幸(観智院所属僧侶)

十一時〜十二時

①A中継なし

B i 國生寺(京都市)

木津恵雄上人(國生寺住職) 他

B ii 板橋区(東京)

中村立道(観智院徒弟)

②法雲寺(豊田市、愛知)

水谷雅豊氏他

(法雲寺所属僧侶)

十二時〜十三時

①A清浄華院大方丈(京都)

高橋上人、松田上人、工藤上人

(清浄華院僧侶)

B 所沢市(埼玉)

酒井正空(観智院所属僧侶)

弁栄上人百回忌浄財報告

多くの方より、ご浄財を頂戴いたしました。心より御礼申し上げます。以下順不同ながら、『眞生』四七四号の前報告から令和二年二月までに、確認できた方のご芳名を記させていただきます。

※山崎弁栄上人讃仰会資料より転載。

◆金五十八万円

清汲院 清心会(福岡)

◆金三十万円

西蓮寺(山口)・小山法龍

◆金二十万円

九州光明会婦人部

浄福寺(大阪)

◆金十二万円

清汲院(福岡)

◆金十万円

大本山 金戒光明寺

安養寺(佐賀) 川端勝教

静岡光明会・圓福寺(宮崎)

矢吹省三・井出忍

久保田修司・弘善寺(福岡)

相馬宣正・法学寺(長野)

菅野浄光・下司仁美

加藤泰彦・若松英輔

◆金六万円

向西寺(鳥根)

◆金五万円

井手洋子・赤荻孝明

志村念覚・井上勝朗

岸田光隆・正行寺(千葉)

一般財団法人 空外記念館

池田和夫・伊藤力

橋本週平・朝比奈俊作

浄土寺(福岡)

◆金三万円

極楽寺(鳥根)・常楽寺(京都)

如来光明寺(大阪)

慶巖寺(長崎)・圓應寺(福岡)

廣瀨童心・鎌尾美津江

亀尾融照・法然寺(広島)

平澤伸一・小宮山弘子

野口好子

◆金二万円

種田恭久・中島艇祐

渡辺好教・長濱智代

杉野光明・大庭明生

吉松ノブ子・西美智子

石川聖教・石川ゆき絵

塩谷寔彦・仁科利

◆金一万

角岡隆寿・田代佳夫

蓮台寺(広島)・佐久間聰子

吉田眞知子・西方寺(大阪)

今岡聰子・鴻野千賀子

吉松邦代 西方寺(和歌山)

岩崎孜・高橋妙子

善生寺(山口)・遠藤由起

川副久美子・神谷美由記

稲葉正男・伊藤よし子

稲田隆子・高橋正子

神谷光太郎・松本脩
浄円寺(佐賀)・松田明

ひかり編集室 加藤健次

渡辺ハツエ・永田朋成

月影寺(小金井市)

極楽寺(富山)坂本一馬

阿弥陀寺(山口)南井栄彦

(敬称略)

眞生芳志感謝

眞生芳志を賜りまことにありがとうございます。至心に感謝申し上げます。(480号以降)

◆金一封

京都伊藤 唯眞猊下

◆金三万円

三重伊藤信夫・神奈川 成実洋史

◆金二万円

岩手吉水俊教・静岡 願成寺

◆金一万五千元

兵庫 山岡和知

◆金一万円

千葉 関野紘一・山形 佐藤康正

東京野田弘子・新潟 与口勝郎

静岡友田達祐・茨城 金田進徳

千葉阿地敏子・千葉 矢崎勝彦

東京 渡辺真宏・山形 斎藤滋明

神奈川 宮林雄彦・東京 稲田正新

三重 中野富夫・埼玉 藤田得三

岐阜 早川静子・埼玉 林光雄

青森 長尾拓應・東京 横山佳江

東京 不断院・佐賀 立川光俊

福岡 八尋聖史・宮城 中村瑞貴

鳥取 工藤純裕・宮城 昌繁寺

東京 出口宣夫・東京 浄土寺

北海道 石川大佑・山梨 高柳了志

東京 英信寺・山梨 称念寺

長野 栄昌寺・北海道 高橋宗憲

静岡 瀧沢廣運

◆金五千元

東京 慶岸寺・東京 荒木良道

千葉 佐藤晴輝・東京 岡本登美子

京都 羽田龍也・神奈川 林春美

京都 池見澄隆・福岡 柿溝瑠璃

兵庫 松永隆史・東京 長谷川岱潤

茨城 小村正孝・長野 若麻績敏隆

東京 大橋英和・青森 鷹鷲信道

東京 長善寺・東京 黒田盛之・敏広

東京 佐藤雅彦・茨城 長谷川君子

埼玉 田口忠男・島根 極楽寺
千葉 加藤裕司

◆金四千元

大阪 八木俊雄・愛知 高木宏昌

◆金三千元

三重 山際久美・東京 上田密記子

愛知 梶山和子・群馬 見沢清芳

長野 海野徹也・東京 山本薫

福岡 国武秀隆・長野 恭俊寺

兵庫 早川省二・長崎 早田明生

東京 川原浄信・均・岩手下 弘明

◆金二千元

福岡 寺壽真紀・東京 岩崎朋和

東京 石井珠子・滋賀 山田能裕

静岡 高田幸男・佐賀 楠久香澄

群馬 見沢礼子・神奈川 天沼寛文

東京 中島真成・東京 金蔵寺

兵庫 明石和成・東京 本橋俊介

千葉 桜井昌彦・東京 牧野総本店

神奈川 下口直久・東京 浜田誠美

滋賀 正定寺・神奈川 都丸慶子

静岡 小沢文子・京都 長澤博子

滋賀 三輪晃照・福岡 坂本一紀

静岡 山崎一典

(敬称略)

2021年 真生会・観智院・多聞院予定

真生会東京本部例会 毎月4日・19日 11時～15時

(19日は13時半より「般若心経」写経または法話)

夕念仏の会 …… 毎月第2金曜日 19時～20時半

松禅院 念仏会 …… 毎月第1土曜・日曜 13時～ 比叡山飯室谷 (宿泊可)

書道教室 …… 毎月第2・第4水曜 17時～ (8月はお休み、12月は第1・第3)

茶道教室 (表千家流) …… 毎月第2・第4土曜 10時から18時

そば打ち道場 …… 毎月第4土曜 10時～

仏教音楽教室 …… 毎月1回 (あるいは2回) 木曜13時

多聞院 老僧と若僧の念仏会 …… 毎月第2・4金曜日 13時～15時

多聞院 不断念仏会 …… 毎月第4金曜日 18時～21時

多聞院 お寺の漫画図書館 …… 毎週水曜17時～20時、毎週土曜10時～17時

1月4日㊦	修正会 ※新年会は中止いたします。	14時～16時
2月初旬	鶴見念仏会 (未定)	11時～15時
2月6日㊦	第29回 一千礼拝行	9時半～
3月20日㊦	春彼岸会 (住職増上寺法話・19日例会休み)	10時～
4月11日㊦～12日㊦	中野善英上人追善 松禅院念仏会	13時～
5月8日㊦～9日㊦	第16回 増上寺24時間不断念仏会	13時～
5月25日㊦～26日㊦	柏崎修養会 (未定)	
6月11日㊦～12日㊦	六時礼讃 別時念仏会・礼拝・写経	18時～
7月10日㊦～16日㊦	お盆棚経	
8月1日㊦～5日㊦	唐沢山阿弥陀寺念仏修養会 (4日例会休み)	14時～
8月21日㊦～23日㊦	比叡山松禅院仲秋念仏大会	13時～
9月18日㊦	秋彼岸会念仏法要	10時～
9月25日㊦～26日㊦	第10回 清浄華院24時間不断念仏会 (未定)	13時～
10月20日㊦～21日㊦	鎌倉大仏さま月夜の別時会	18時～
10月30日㊦～31日㊦	伊勢市慶蔵院大念仏会	9時～
11月18日㊦～20日㊦	真生同盟本部大会	13時～
11月6日㊦	観智院秋の文化祭	10時～
12月10日㊦	タラレバ供養・ポーネンブツ会 (夕念仏)	19時～
12月19日㊦	真生本部例会納め会	11時～

※新型コロナウイルスの影響で予定が変更になることがありますので、随時ホームページ (<http://canchiin.net/>) をご確認ください。

… 御 礼 …

480号において、「松禅院念仏堂修繕事業浄財勧募のお願い」をしましたところ、多くの方々から
ご浄財を頂戴いたしました。

心より感謝申し上げます。

尚、詳細についてはこれからご報告いたします。